



# さわらび

第 82 号

発行元:十和田市立中央病院 地域医療連携室  
発行責任者:室長 丹野 弘晃  
十和田市西十二番町14番8号  
TEL 0176-23-5869  
FAX 0176-21-1234

<http://www.hp-chuou-towada.towada.aomori.jp/02renkei/04sawarabiNews.html>

## 新年のごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましてはお健やかに新しい年を迎えられたことと存じます。

すでにご存じのこととは思いますが、年明け早々に7年余り当院の舵取りを担ってこられた蘆野吉和先生が退任されました。当院に緩和ケアの基本であるホスピタリティー：おもてなしの心を根付かせてくださったと思います。院内の雰囲気がやわらかくやさしくなり、職員の接遇も改善されてきているというお声もいただいております。これは一例に過ぎませんが、これまでの蘆野先生の多方面にわたる功績に心より感謝申し上げます。今後も青森県に残り、緩和ケアの普及に尽力されるとのこと、益々のご活躍をお祈り申し上げます。



十和田市立中央病院  
院長 丹野 弘晃

残された我々はおもてなしの心を医療従事者であることのバックボーンとして、更なる質の高い医療を地域の皆様に提供する使命があります。地域の中核病院として果たすべき役割を再認識し、全職員一丸となって当院の理念のもと前進しなければなりません。バトンを渡された私自身その思いを強くしております。

当院のこれまでの理念は「いのちをささえ、いのちをつなぐ」医療の実践であります。これに私の思いをワンフレーズ加えて、今後は「いのちをみまもり、いのちをささえ、いのちをつなぐ」医療の実践としたいと思います。その意図するところは、住民の皆様の健康はもちろんのこと生活についても見守るということです。具体的には疾病の予防に関する健康教育や健診を中心とした疾病の早期発見にも力を注いで行きたいと思っております。さらには認知症を含む高齢者の方の見守り、また生命の誕生を見守ることができる医療も展開したいという強い思いも含まれています。

今後も我々が身に付けてきたおもてなしの心を土台として、急性期医療を主軸に、予防医学・健診事業にも今まで以上に力を傾注したいと思います。短命県という汚名を返上するためにも、まずここ上十三地域の健康寿命を県内一にしたいとの思いが単純な私にはあります。地域一体となって取り組むべき究極の目標ではありますが、「連携」を合言葉にこつこつとやっていきたいと思っておりますので本年もよろしくお願い致します。

# 市民講演会・市民公開講座を開催して

## 「妻を看取る日」 厚生労働省在宅医療連携拠点事業



平成 24 年 10 月 19 日富士屋グランドホールにおいて在宅医療の普及活動を目的とした市民講演会を開催しました。

講師には日本のがん医療、がん研究の第一人者である垣添忠生先生（国立がんセンター名誉総長、日本対がん協会会長）をお招きし、ご自身の著書にもあります「妻を看取る日」を演題として奥様と旅行した奥日光のスライドとともに、ご自身が体験した奥様の在宅での看取りを語られ、喪失から再生

そして現在へ至るまでのお話を語っていただきました。

地域住民およそ 170 名の参加があり、著書だけではなかなか伝わらない内容を、実際にお話を聞くことにより心が打たれましたと好評でした。

会場では在宅医療推進に向けての小冊子も合わせて配布し地域住民の皆様へ在宅医療の必要性の説明をいたしました。

## 「いのちを語り継ぐまちづくり」 厚生労働省在宅医療連携拠点事業



高齢化の進行とともに増えるのが「看取り」で、私たち自身にとっても、家族にとっても、社会にとっても非常に大切な出来事です。その経験が語り継がれることで地域のあり方が変わります。私たちは、どこで、どのように、自分の人生を生き切るか、その生き方を誰に伝えるのかを一緒に考える内容のセミナーです。

平成 24 年 11 月 17 日さわらび会館において市民公開講座を開催しました。

十和田緩和ケアセミナーの一環として市民公開講座「いのちを語り継ぐまちづくり」を開催し、およそ 60 名の地域住民の参加がありました。

講師は岩手県特養ホーム光寿苑の副苑長太田宣承先生をお招きして地域での看取りについてご講演していただきました。講演の中で、特養ホームの入所者とその家族やスタッフを交え、「どこで」「誰のそばで」「どのように息を引き取りたいか」「最後の晩餐は」「今」をどう生きたいか」というテーマで話し合う取り組みについてお話しされました。入所者だけが考えるのではなく、それぞれが自分の生き方について考えるという大変ユニークな取り組みであり、誰もが体験する看取りについて積極的に考えることができる場となっていることに大変驚きました。講演内容もわかりやすく、ときにユーモアに一人寸劇で会場を沸かせてくださいました。「雪そり復活」の話や、「入所者カーテン戦争」など、ビデオを見ながら解説していただきました。約 1 時間半、笑顔あふれた楽しい講座となりました。

# 外来診療担当医表 平成25年 2月

十和田市立中央病院 平成25年2月～

担当科	月	火	水	木	金
消化器内科	高井哲史(1)	高井哲史(2)	高井哲史(1)	高井哲史	佐藤守彦
	佐藤守彦(2)	佐藤守彦(1)	佐藤守彦(2)		
糖尿病外来			片野春人(応援医師)		藤原史門(応援医師)
呼吸器内科	工藤優	工藤優	工藤優	工藤優	工藤優
	東北大応援医師				
循環器内科	小山滋豊	小山滋豊	小山滋豊	小山滋豊	小山滋豊
	藤原崇之	藤原崇之	藤原崇之	藤原崇之 東北大応援医師(隔週)	藤原崇之 東北大応援医師(隔週)
総合診療科 (内科部門)	宮川晃	宮川晃	宮川晃	宮川晃	宮川晃
	吉村純彦	吉村純彦	吉村純彦	吉村純彦	吉村純彦
	石橋和也	石橋和也	石橋和也	石橋和也	石橋和也
がん総合診療外来	吉村純彦	吉村純彦	吉村純彦	吉村純彦	吉村純彦
	丹野弘晃				
甲状腺外来			丹野弘晃		
外科	小田聡	丹野 弘晃	菊地 大介	杉田純一	交代で担当する
		阿部永			
乳腺外来			外科医師	外科医師	外科医師
整形外科	田澤浩司	菊池明	田澤浩司	菊池明	田澤浩司
脳神経外科	善積威	善積威	外来診療なし	善積威	善積威
	赤坂健一	竹田哲司		赤坂健一	竹田哲司
神経内科					工藤雅子(応援医師)
小児科	小田誠	小田誠	小田誠	小田誠	小田誠
	工藤雅庸	工藤雅庸	工藤雅庸	工藤雅庸	工藤雅庸
	弘前大応援医師		応援医師 (第1週を除く)		
婦人科	富浦一行	富浦一行	富浦一行	富浦一行	富浦一行
泌尿器科	成田直史	寺井康詞郎	成田直史	寺井康詞郎	
眼科	関野尹夫			関野尹夫	関野尹夫
耳鼻咽喉科	藤原文明	藤原文明	弘前大応援医師	応援医師	藤原文明
皮膚科	菅原正幸	菅原正幸	菅原正幸	菅原正幸	菅原正幸
		東北大応援医師(隔週)	東北大応援医師(隔週)		
ペイン クリニック					深田祐作
メンタル ヘルス科	谷地森康二	谷地森康二	谷地森康二	谷地森康二	谷地森康二
	竹内淳子	竹内淳子	竹内淳子	竹内淳子	竹内淳子

平成24年12月患者数実績：資料提供 医事課

入院患者数(一般)	230.2人
外来患者数(一般)	615.4人
平均在院日数	12.9日
病床利用率	70.8%

紹介率	54.3%	逆紹介率	35.4%
-----	-------	------	-------

# お知らせ

## 緩和ケアセミナーのお知らせ

日時：平成25年2月5日(火曜日)  
17:45~19:00  
テーマ：「スピリチュアルケア」  
「リンパ浮腫ケア」  
講師：緩和ケア認定看護師 太田  
当院リンパ浮腫療法士  
対象：医療・介護・福祉関係者のみなさま  
お問い合わせ：十和田市立中央病院  
緩和ケア認定看護師 太田  
0176-23-5121(内線 7560)

## 褥瘡対策チーム事例発表会

日時：平成25年2月18日(月曜日)  
17:30~18:15  
発表予定：手術室・別館4階・  
発表者・司会：皮膚・排泄ケア認定看護師  
木村 英子  
座長：中央病院 皮膚科科長 菅原正幸先生  
お問い合わせ：十和田市立中央病院  
皮膚・排泄ケア認定看護師 杉山  
0176-23-5121(内線 7558)



平成25年 年賀状 畑中 光昭 作



蘆野先生  
お疲れ様  
でした。